

KOBELCO

第164期
上半期

株主の皆様へ

平成28年4月1日～平成28年9月30日

証券コード 5406

お知らせ

- 「株主様見学会参加者募集のご案内」を6ページに掲載しております。

株式会社 神戸製鋼所



代表取締役会長兼社長

川崎博也

複合経営による
成長戦略を深化させ、
当社グループ独自の
付加価値をさらに高め、
将来の飛躍に向けて邁進します。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当上半期の業績と配当について

当社グループの上半期の連結業績は、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、素材系事業での原料価格下落に起因する販売価格や在庫評価影響の悪化、加古川製鉄所の高炉改修の一時費用計上などのため、減収減益となりました。中間配当につきましては、こうした業績や資金需要、財務体質なども考慮した結果、見送らせていただきました。株主の皆様のご期待に沿えず申し訳ございませんが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後の取組みについて

当社グループは、2013年度より、鉄鋼事業の収益力強化を含む「経営基盤の再構築」と素材系事業、機械系事業、電力事業の事業拡大などの「安定と成長への布石」としての施策に取り組んでまいりましたが、この方向性に基づく成長戦略の一層の深化が、収益力と事業基盤の強化につながるとの認識のもと、本年4月に「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、それに基づく施策の着実な遂行に取り組んでおります。

まず、素材系事業では、鉄鋼事業の構造改革の完遂に向け、本年9月に加古川製鉄所の高炉改修工事を開始しました。また、輸送機の軽量化に様々な側面から応える取組みも行っており、例えば、自動車メーカーの燃費・環境性能向上等のニーズに応えるため、鉄・アルミ・溶接技術を駆使した、独自のマルチマテリアル化技術(各異素材の優れた特性を活かしつつ併用する技術)の開発に取り組んでおります。その他、本年8月には、需要拡大が見込まれる北米自動車市場の軽量化ニーズに応えるため、北米の自動車用アル

ミ押出・加工品の生産・販売拠点の建設を始めました。

機械系事業では、近年のプラント大型化の進展により急成長中の大型ターボ圧縮機市場に参入するために世界最大級の試運転設備を建設中であり、また、喫緊の課題である建設機械事業の収益力強化については、需要に応じたグローバルな生産体制の見直しなどの構造改革を進めております。

電力事業については、2つの発電所建設プロジェクトを着実に推進しており、真岡のプロジェクトでは、6月より本格的な建設工事を開始しております。

コンプライアンスについて

このような取組みを実施するためには、コンプライアンスの遵守が大前提となりますが、本年6月、当社関連会社である神鋼鋼線工業株式会社の子会社において、日本工業規格(JIS)上の引張強度に満たない製品のデータを改ざんし、出荷していたことが判明いたしました。当社グループ全体でのコンプライアンスの徹底を図ってきた中、このような事実が判明したことは、多くの方の信頼を損なうものであり、誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

現在、再発防止に向け、当社グループ全体で品質コンプライアンス体制の再構築を進めており、一丸となって皆様からの信頼回復に努めてまいります。

国内外の経済環境の先行きは、依然不透明な状況ですが、当社グループは、安全・コンプライアンスの徹底、社会との共生を大前提としながら、成長戦略を着実に進めることで、独自の付加価値向上に取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月

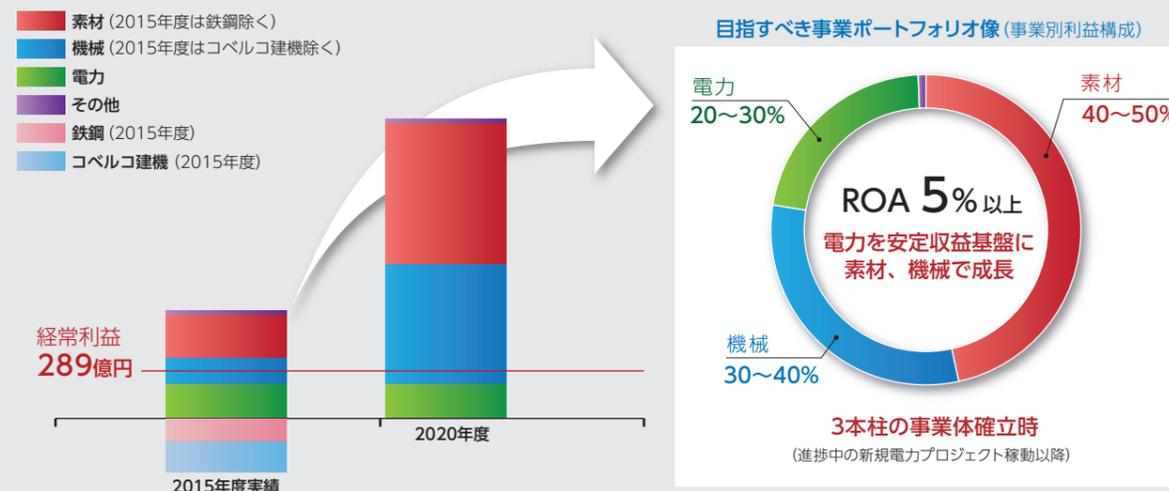
2016～2020年度グループ中期経営計画

当社グループは「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、素材系事業・機械系事業・電力事業の3本柱による成長戦略を一層深化させ、盤石な事業体を確立させる新たなビジョンである「KOBELCO VISION “G+” (ジープラス)」への取組みをスタートさせました。具体的には、輸送機の軽量化やエネルギー・インフラなど中長期的に伸張する成長分野に経営資源を集中し、当社グループ独自の付加価値を更に高め、競争優位性を発揮していくことで事業を拡大・発展させるとともに、社会への貢献を目指します。最終年度である20年度には、「ROA*5%以上、D/ELシオ*1倍以下の堅持」を目標とし、財務の健全性を確保しつつ、収益性(資本効率)の向上を実現します。

連結配当性向は15～25%を目安としつつ、当社の財政状態、先行きの資金需要、各期の業績および配当性向等を総合的に勘案して決定します。当面の間は、将来の成長のために必要な投資等を優先することで収益力の向上を図り、グループ全体での企業価値、ひいては株主共同の利益の向上に努めます。

*ROA:経常利益÷総資産
*D/ELシオ:有利子負債÷自己資本

■業績イメージ



■3本柱の事業成長戦略

| 素材 | 機械 | 電力 |
|---|---|--|
| ①輸送機軽量化への取組み(自動車分野) ●超ハイテン・アルミ素材の競争力強化、異材接合技術等によるマルチマテリアル化提案によるシェア拡大 ●競争力強化、成長に向けた1,000億円規模の戦略投資の検討(航空機分野) ●チタン・アルミ等の素材の上工程(溶解、鑄造/鍛造)強化 ●チタン・アルミ等の素材の上～下工程一貫体制の確立 ・下工程(機械加工、表面処理、塗装)参入・拡大に向けた研究開発の推進 ②鉄鋼事業の収益力強化 ●加古川製鉄所への上工程集約(2017年度完了予定) ●設備投資・生産現場でのコスト削減 | ①エネルギー・インフラ分野への取組み ●大型ターボ圧縮機市場への参入による汎用圧縮機事業の拡大 ●海外展開、商品競争力強化、生産基盤強化による汎用圧縮機事業の拡大 ●水素関連ビジネスでの差別化技術確立による競争力強化 ・水素ステーションテストセンター新設 ・再生可能エネルギーを利用した実証実験 ②建設機械事業の収益力強化 ●中国ショベル事業の生産能力見直し・拠点の機能見直しによる収益力強化 ●欧米・インドでの拡販 ●建機・クレーン事業統合による強靱な事業基盤の確立 | 電力事業の安定収益化への取組み ●神戸発電所の安定稼動による収益最大の確保 ●真岡プロジェクトの完遂、円滑な立上げ ●神戸プロジェクトの着実な推進 |

■経営基盤の強化

| | | |
|--|---|---|
| ①コーポレートガバナンスの強化 ●監査等委員会設置会社への移行 ●取締役会メンバーの見直し ●独立社外取締役会議の新設 ●業務執行体制の強化 | ②人材確保・育成 ●ダイバーシティの推進や働き方変革を通じ、安全で働きやすい職場作りに注力 ●当社グループの成長を牽引する人材の確保・育成 | ③技術開発力・ものづくり力の向上 ●主力製品の競争力強化のための差別化技術の創出 ●自動車、航空機、エネルギー分野で顧客価値を実現する製品・プロセスの創出 ●品質力や現場力の強化、データ活用による、生産基盤強化とものづくり力の底上げ |
|--|---|---|

※当グループ中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページ (<http://www.kobelco.co.jp>) をご覧ください。

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、右記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します。
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます。
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します。

鉄鋼事業部門

2,903億円 (前年同期比 △14.2%)

- 鋼材販売数量：国内の自動車や造船向けを中心に前年同期並も、輸出減少のため、前年同期比減
- 鋼材販売価格：主原料価格下落や円高の影響などにより、前年同期を下回る
- 鍛鋼品売上高：国内造船向け需要が堅調に推移も、中国造船向け需要減少などにより、前年同期比減
- チタン製品売上高：円高の影響あるも、数量増により、前年同期比増
- 経常損益：前年同期比86億円悪化の98億円の損失



加古川製鉄所

溶接事業部門

422億円 (前年同期比 △9.4%)

- 溶接材料販売数量：国内の建築やエネルギー向けの需要回復の遅れや中国・米国向け需要の低調な推移により、前年同期比減
- 溶接システム売上高：国内建築向け需要が堅調に推移し、前年同期比増
- 経常利益：前年同期比4億円減益の38億円



フラックス入りワイヤ(FCW)

アルミ・銅事業部門

1,629億円 (前年同期比 △8.6%)

- アルミ圧延品販売数量：飲料用缶材や自動車向けの需要が堅調に推移し、前年同期比増
- 銅圧延品販売数量：前年同期比増
[銅板条]自動車用端子や半導体向け需要が前年同期並
[銅管]エアコン向け需要が堅調に推移
- 経常利益：原料価格下落に伴う在庫評価影響の悪化などにより、前年同期比28億円減益の65億円



アルミボトル缶材

機械事業部門

720億円 (前年同期比 △11.4%)

- 受注高：エネルギー関連業界向けの需要低迷と円高の影響により、前年同期比24.1%減の558億円
- 当期末受注残高：1,246億円
- 経常利益：コスト低減による採算改善などにより、前年同期比9億円増益の37億円

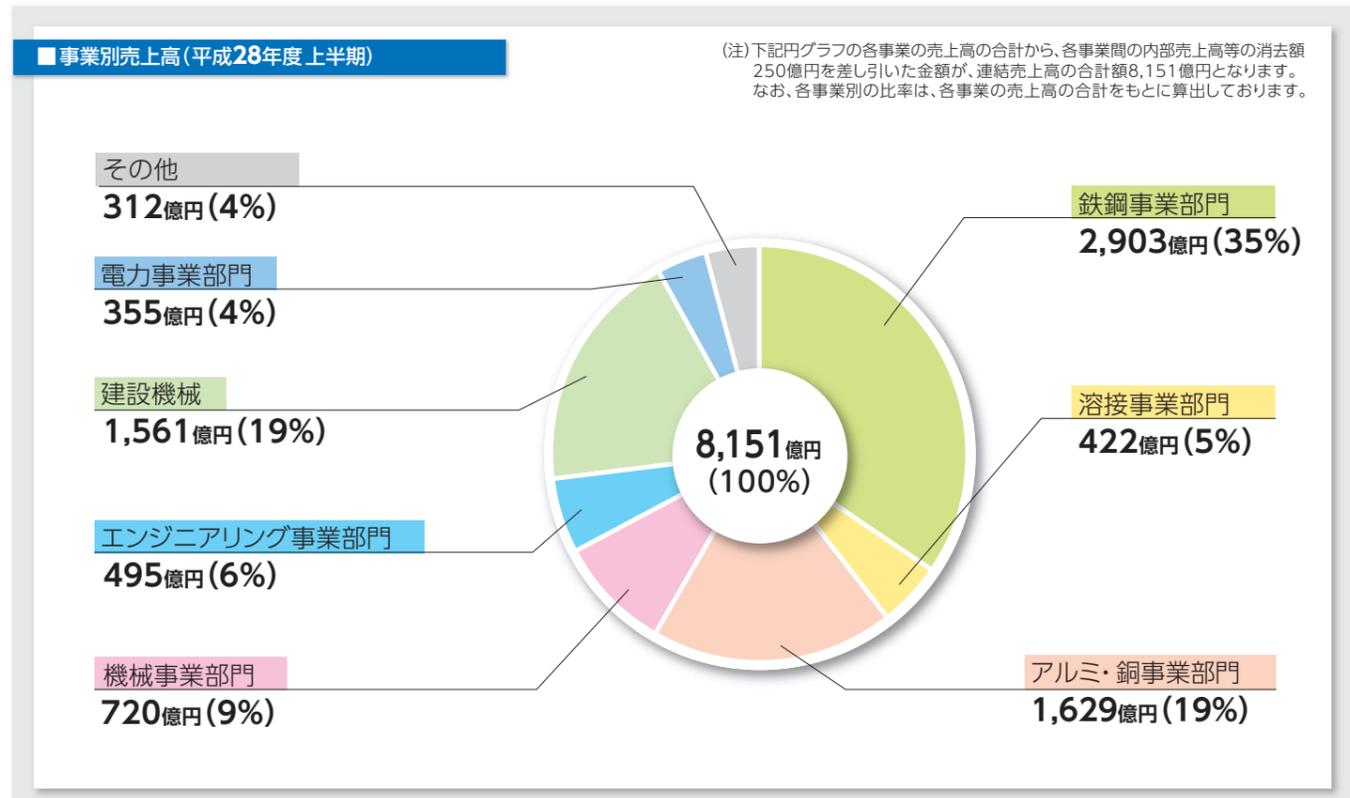
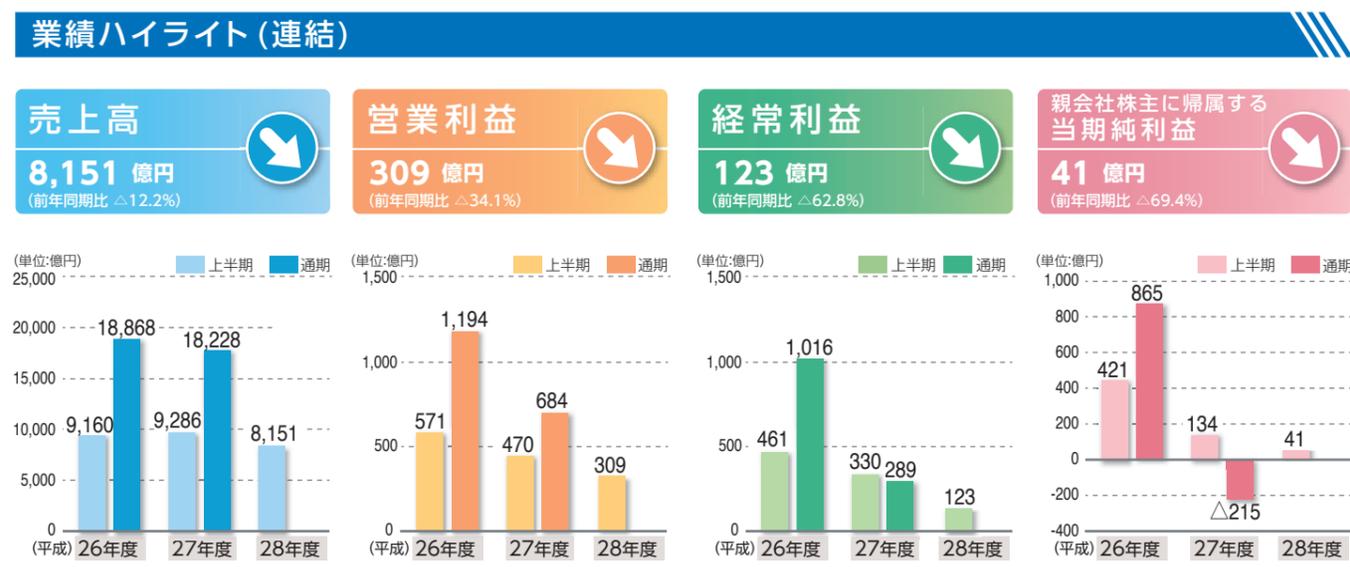


ギア内蔵ターボ圧縮機

当期の概況

当社グループの鋼材の販売数量は国内では前年同期並に推移した一方、輸出が減少したことから前年同期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は前年同期を上回り、銅圧延品の販売数量は前年同期並に推移しました。油圧ショベルの販売台数は国内や中国等において前年同期を下回りました。

この結果、当上半期の売上高は前年同期比1,134億円減収の8,151億円となり、営業利益は前年同期比160億円減益の309億円、経常利益は前年同期比207億円減益の123億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比93億円減益の41億円となりました。



エンジニアリング事業部門

495億円 (前年同期比 △13.6%)

- 受注高：海外での還元鉄プラント案件や国内での廃棄物処理プラント案件受注があるも、前年同期比9.5%減の806億円
- 当期末受注残高：1,468億円
- 経常利益：前年同期比26億円減益の0億円



京都市鳥羽水環境保全センター
消化ガス天然ガス化装置

建設機械

1,561億円 (前年同期比 △13.9%)

- 油圧ショベル販売台数：前年同期比減
[国内]需要減少
[海外]中国で販売条件を厳格化し営業活動に取り組む中、需要低迷継続
- クローラークレーン販売台数：東南アジアを中心に需要減少し、前年同期比減
- 経常損益：販売台数減少や円高による採算悪化などにより、前年同期比25億円減益の5億円の損失



ハイブリッド油圧ショベル
クローラークレーン

電力事業部門

355億円 (前年同期比 △8.5%)

- 販売電力量：前年同期並
- 電力単価：燃料費調整により、前年同期を下回る
- 経常利益：保全費減少などにより、前年同期比2億円増益の83億円



神戸発電所

その他

312億円 (前年同期比 △12.4%)

- 神鋼不動産：[分譲事業]引渡戸数減少 [賃貸事業]堅調に推移
- コベルコ科研：自動車向け試験研究事業やフラットパネルディスプレイ向けターゲット材の受注減
- その他の事業全体の経常利益：前年同期比13億円減益の20億円



シークレフ
須磨名谷レジデンス
第2期

※本年4月1日付での電力事業部門の新設、コベルコ建設株式会社とコベルコクレーン株式会社の経営統合および株式会社神鋼環境ソリューションのエンジニアリングセグメントへの組入により、報告セグメントを「鉄鋼」、「溶接」、「アルミ・銅」、「機械」、「エンジニアリング」、「建設機械」、「電力」および「その他」に変更しました。

(注) 表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。各事業名の下に数字は売上高を記載しています。

4月 本社・技術開発部門

NMR装置が文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞

当社が国立研究開発法人物質・材料研究機構、国立研究開発法人理化学研究所および株式会社JEOL RESONANCEと共に開発した、世界最高磁場のNMR装置(1020MHz)が、平成28年度文部科学大臣表彰において、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な功績をあげた者に与えられる「科学技術賞」を受賞しました。

※NMR装置:物質へ磁場をかけて分子構造を調べる装置



NMR装置外観

6月 電力事業部門

真岡発電所 建設工事開始

栃木県真岡市での発電所建設プロジェクトでは、環境アセスメントが今年5月に完了し、6月より本格的な建設工事を開始しました(2019年後半稼働予定)。



真岡発電所

神戸製鋼所 真岡製造所

真岡発電所 最終完成イメージ図

8月 アルミ・銅事業部門

米国での自動車向けアルミ押出・加工品の製造・販売会社建設開始

北米での自動車向けアルミ押出材(バンパー材や骨格材など)の需要拡大が見込まれる中、米国ケンタッキー州で自動車向け押出製品の溶解から加工までの一貫生産拠点の建設を開始しました。2017年後半には加工工程の稼働を開始し、2018年後半に溶解・押出工程の稼働を順次開始する予定です。当社グループは、現在、日本でアルミ押出・加工品を8基の押出プレス機で生産していますが、本拠点の稼働後は、1基増えて合計9基の押出プレス機で生産することになります。

積極的な軽量化提案を通じて、現地のお客様の信頼を獲得すると共に、日米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制を強化していきます。

当社ホームページではこのほかにも、様々なトピックスをご紹介します。 <http://www.kobelco.co.jp>

株式に関するご案内

「特別口座」について

現在株券をお持ちの株主様や、以前株券をお持ちで現在株券の所在がわからなくなった株主様は、「特別口座」で管理されている可能性がありますので、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください(お問い合わせ先は右ページに記載しております。)[特別口座]では単元株式の売買はできません。証券会社にお預けでない株式について、証券会社の口座に移管することをお奨めします。

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社にお預けされていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。

株式の併合および単元株式数の変更について

本年10月1日に当社株式について、10株を1株に併合するとともに、単元株式数を1,000株から100株に変更しました。株式の併合の結果、端数株式(1株に満たない株式)が生じた株主様につきましては、全ての端数株式を法令に基づき、当社が一括して処分し、その代金を端数が生じた株主様に対し、端数の割合に応じてお支払いします。当該代金の各株主様へのお支払いは、12月上旬に開始する予定です。

7月 鉄鋼事業部門

エアバス最新鋭機向けチタン大型鍛造品の量産供給開始

当社は、エアバス社の最新鋭中型機[A350XWB]の着陸装置(機体を地上で支える車輪・緩衝装置)に使用されるチタン大型鍛造品の量産供給を開始しました。

今回、量産供給を開始した製品は、当社・日立金属株式会社等との合併会社である日本エアロフォージ株式会社が鍛造工程を担当し、当社がそれ以外の工程および製品の工程設計、品質保証を担います。

当社は、60年以上にわたる航空機産業への豊富な供給実績を活かした品質・工程・設計技術に加え、日本エアロフォージ株式会社が持つ最先端の鍛造設備により、高品質のチタン鍛造製品を世界の航空機産業向けに供給していきます。



航空機着陸装置用チタン大型鍛造品

株主様見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様見学会を実施いたします。今回ご覧いただくのは、神戸総合技術研究所と神戸製鉄所でございます。つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

| | |
|---------|---|
| 開催場所 | 神戸総合技術研究所 兵庫県神戸市西区高塚台1-5-5 神戸製鉄所 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2 |
| 対象者 | 平成28年9月30日現在、当社株式を1単元以上ご所有の株主様 |
| 募集人数 | 神戸総合技術研究所 90名(各回45名) 神戸製鉄所 200名(各回50名) ※募集人数には同伴者様も含みます。 |
| 参加費 | 無料 ※ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。 |
| 応募方法 | 同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。 ※対象者の方にのみ、はがきを同封しております。 【締切日：平成28年12月22日(木)到着有効】 |
| お問い合わせ先 | 株式会社神戸製鋼所 法務部 株主様見学会係 TEL 078-261-4067 受付時間 10:00～17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く) |



取締役および執行役員 (平成28年9月30日現在)

| | | |
|-----------------|--|--|
| 取締役会長兼社長(代表取締役) | 川崎 博也 | |
| 本社 | 取締役副社長執行役員(代表取締役) 梅原 尚人 取締役常務執行役員 三宅 俊也 専務執行役員 森地 高文 | 常務執行役員 河原 一明 常務執行役員 山本 浩司 執行役員 大久 保安 |
| 鉄鋼事業部門 | 取締役副社長執行役員(代表取締役) 尾上 善則 ※ 専務執行役員 宮下 幸正 専務執行役員 水口 誠 | 専務執行役員 柴田 耕一朗 常務執行役員 松原 弘明 常務執行役員 岡 欣彦 |
| 溶接事業部門 | 取締役専務執行役員 興石 房樹 ※ | 執行役員 山本 明 |
| アルミ・銅事業部門 | 取締役副社長執行役員(代表取締役) 金子 明 ※ 常務執行役員 加藤 宏 | 常務執行役員 藤井 拓己 執行役員 磯野 誠昭 |
| 機械事業部門 | 取締役専務執行役員 山口 真 ※ | 専務執行役員 大濱 敬織 執行役員 竹内 正道 |
| エンジニアリング事業部門 | 取締役専務執行役員 眞部 晶平 ※ | 常務執行役員 森崎 計人 常務執行役員 石川 裕士 |
| 電力事業部門 | 常務執行役員 北川 二朗 ※ | |
| 取締役(非常勤) | 取締役 榎木 一秀 (コベルコ建機株式会社取締役社長兼任) | |
| 社外取締役 | 取締役 北畑 隆生 ※ 取締役(監査等委員・常勤) 藤原 寛明 取締役(監査等委員・常勤) 山本 敬藏 | 取締役 越智 洋 ※ 取締役(監査等委員) 沖本 隆史 ※ 取締役(監査等委員) 宮田 賀生 ※ |
| 監査等委員 | 取締役(監査等委員) 千森 秀郎 ※ | |

※印は、各事業部門長であります。*印は、社外取締役であります。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。

- 株主様見学会コースは比較的長い距離の徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。
- ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。抽選の結果は1月末頃にご通知する予定です。
- 同伴者様は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。なお、同伴者様がいらっしゃる場合は必ず参加申込はがきに同伴者様に関する必要事項をご記入ください。申込後に、同伴者様の追加はお受けすることができません。
- 以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。
 - 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
 - 同伴者様を2名以上ご記入の場合
 - 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
 - 株主様1名につき、2枚以上ご応募された場合
 - 株主様お名前等、必要事項のご記入がない場合

株主様見学会の概要

| 申込番号 | 開催場所 | 実施日時(平成29年) | 集合時刻 | 解散予定時刻 | 集合・解散場所 |
|------|-----------|-------------|-------|--------|---------------|
| ① | 神戸総合技術研究所 | 2月22日 | 9:00 | 12:20頃 | 神戸市営地下鉄西神中央駅※ |
| ② | | | 13:00 | 16:20頃 | |
| ③ | 神戸製鉄所 | 3月12日 | 9:00 | 12:40頃 | JR六甲道駅※ |
| ④ | | | 13:10 | 16:50頃 | |
| ⑤ | | | 9:00 | 12:40頃 | |
| ⑥ | | | 13:10 | 16:50頃 | |

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

これまでの開催実績(過去4回分)

| | 日 時 | 開催場所 | 募集人数 | ご応募総数 |
|------|-----------|--------------------|------|--------|
| 第15回 | 平成27年 3月 | 神戸総合技術研究所 神戸製鉄所 | 290人 | 3,026通 |
| 第16回 | 平成27年 11月 | 高砂製作所 | 320人 | 2,202通 |
| 第17回 | 平成28年 3月 | 加古川製鉄所 コベルコ建機広島事業所 | 450人 | 2,297通 |
| 第18回 | 平成28年 11月 | 真岡製造所 | 240人 | 1,206通 |

会社の概要 (平成28年9月30日現在)

| | |
|--------------------------|--------------|
| 創立 明治38年9月 | 株主数 222,637名 |
| 発行済株式総数 36億4,364万2,100株* | 従業員数 11,223名 |
| 資本金 2,509億3,003万3,900円 | |

※本年10月1日付にて株式の併合(10株を1株に併合)を実施したため、当社の発行済株式総数は、3億6,436万4,210株となっております。

株式のお手続に関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料(平日9:00～17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。
※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

環境への取り組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

環境経営 基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』 グループの環境力向上

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

「国際フロンティア産業メッセ2016」に出展

2016年9月8日(木)、9日(金)の2日間、『次世代を創生する技術の結集』をテーマとして、「国際フロンティア産業メッセ2016」が神戸国際展示場で開催されました。当社グループは、水素関連技術を中心に、その他自動車軽量化技術や防災・環境関連技術などを紹介しました。



展示ブースの様子



防災関連の展示(フレア護岸、砂防えん堤)

ラグビーを通じての活動

当社ラグビー部、神戸製鋼コベルコスティーラーズは、ラグビーを通じて地域・社会と積極的に交流を図り、多くの方々にラグビーの魅力伝える活動を行なっています。一人でも多くの方に、ラグビーの魅力伝えるべく、神戸市の小学校や幼稚園にタグラグビー(タックルやスクラムなどの接触プレーがない、安全性の高い誰でも楽しめるラグビー)の出張授業、地域のお祭りやトークショー等のイベントに選手が参加しています。これらの活動により、2019年にラグビーワールドカップが開催される予定の神戸市をはじめ、地域におけるラグビーの普及に引き続き取り組んでいきます。



ラグビースクールでの指導の様子



小学校でのタグラグビー教室の様子

詳しくは [ホームページ](#)をご覧ください。

KOBELCO

検索

<http://www.kobelco.co.jp>